Greeting

いのちや野生に思いを広げられる動物園に

園長　小松 守

北国の動物園にも春がやってきた。お日様から力をもらい、人と同じようにウキウキする動物は、見る人を楽しませ、元気も与えてくれる。人も動物も等しくお日様の力、自然に生かされているのだろう。

今の時代、社会はどこかいのちへのいたわりや思いやりが薄れ、あるいは自然環境の変化は動物たちをも生きにくくさせ、人と野生動物の関係も微妙に変化しはじめている。異なる二つの事象だが、人の人に対する、あるいは自然や動物に対する愛着の弱まりが根っこにあるのかもしれない。いのちや自然をちゃんと見つめ、ふれあい、理解する機会が少なくなっているところに問題の一つがあるのだろうか。

動物園という存在を改めて考えてみた。これらの問題に動物園が直接的に関わることはできないだろうが、人は動物を目の前にし、自分と同じいのちを感じ、思うだろうし、動物が生きる野生へと意識を広げるきっかけづくりにはなれるだろう。

大森山では今年末の完成予定でサル舎の再整備が進められている。隣接するチンパンジー展示と併せ、サルたちとの新しい出会いで、いのちの大切さや野生にも思いを広げられるような発信を進めてみたいものだ。

整備が進む新サル舎

エンリッチメント大賞2019 大賞（総合評価賞）受賞

飼育展示担当　主席主査 柴田 典弘

NPO法人市民ZOOネットワークが主催し、動物の暮らしをより豊かにするための優れた取り組みに対して贈られる「エンリッチメント大賞2019」で、当園のトナカイ飼育の取り組み「トナカイの放牧飼育を含むエンリッチメント」が大賞（総合評価賞）を受賞しました。これまで長期に渡ってトナカイ飼育が抱えてきた暑さとサシバエへの対策や、歯の摩耗を予防するためのエサの追求、さらには水辺での放牧をチームで研究し、発展させ続けてきたことが評価されての受賞となりました。

2019年12月7日に東京大学で同賞の授賞式が行われ、当園から私と牛越の2名が出席しました。秋田をはじめ、全国各地からたくさんの方が授賞式に集まり、立ち見が出るほどの熱気の中で、受賞園館による記念講演やトークセッション等を行い、大変な盛り上がりとなりました。

今回の受賞は、2013年に「キリンのための飼育管理」で初受賞して以来となる2度目の快挙です。これからは、エンリッチメント大賞を2度受賞した動物園の飼育技術者として、動物のより良い飼育のみならず、幸せを追求することにより、来園者の心も豊かになる動物園を目指し、新たな挑戦を続けていきたいと思っております。

写真前列右から牛越、柴田